

川崎エコクラブ

くろぼくを調べる

5-1

1. くろぼくとは



真、黒な色をした土。植木やしほふに適している。

この辺はサツキの生産が多く、生産の時土も一緒に出荷してしまうため年々減ってきている。

2. 能褒野の土、くろぼく



このかたんは、FBCフラワーラボでたけの賞をもらたかだんはくろぼくがわっています。
 これはしそ畑です。夏にはしそジュースや梅ぼし作りの材料としてつかわれています。しそ作りにもくろぼくはつかわれています。
 川小のフレンドリー農園で五年生が育てたかぼちゃです。フレンドリー農園にまたつかわれています。
 この辺りではサツキの生産額が全国でトップです。春には色あざやかなサツキがたくさん咲いています。

3. 川崎小学校のくろぼく

なにもなかった中庭に去年の3月ごろからくろぼくを使い、しばふの広場を作りました。



まず1. 昔の中庭! 2. これがくろぼくです。 3. くろぼくをひきました。 4. そして全校のみばでしばふを植えました。 5. しばふを植えた上に山砂という砂をかけました。 6. これが完成した「しばふ」です。しばふにはマイクスイオンこうかがあります。

川崎の川

4. 聖なる流れ

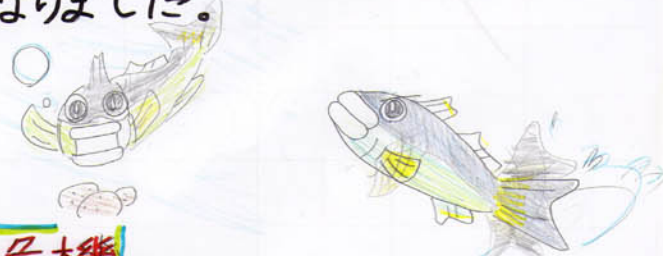
川崎地区は安楽川、御幣川、八島川の3つの美しい川に囲まれています。安楽川はネコギキ、アカザなどとても貴重な魚がすんでいるそうです。八島川は、ホタルの故郷として有名です。



MAP

5. 御幣川の『おにえ神事』

今から1400年以上も前、敏達くひたつ天皇がこの地方をめぐったおりに御幣川のアユをさし上げました。とてもすばらしいアユということで、それから伊勢神宮に献上する事になりました。



6. 清流の危機

現在この地区にアユはいません。下流にある頭首口<とうしゅうこう>がいくつも造られて御幣川にも2mの堰<せき>があるため上れなくなりました。今でも泳げるような美しい川ですが、本当の豊かな川とはいえなくなっていました。もし、これらの川に魚道ができれば、アユも戻ってくるという話を聞き、アユのすむ本当の清流になってほしいと思っています。

7. クロメダカ大量発見!

校区内を調査したところ、絶滅が心配されているメダカがたくさん見つかりました。川の水は、やはり美しいことが証明されました。みんなで世話をし、2倍ぐらいの数に増して放流しました。



8. 安楽川の生き物

安楽川にはスジエビ、テナガエビなどがいました。ほかにカワムツ、カニ、ギンブナ、タカハヤ、コイ、ドジョウ、メダカ、ヨシノボリ類など、いなくなってしまうような魚も安楽川にいました。



こどもエコクラブ全国フェスティバルのゆき	クラブ所在地	三重	都道府県	亀山	市区町村
	クラブ名	川崎小学校エコクラブ 5年1組			